

熊本高専の永田正伸
・地域協働プロジェクトセンター長は「実用化できそうな製品もあった。今後の研究に生かしてほしい」と評価した。（深川杏樹）

新アプリや製品 企業にプレゼン

熊本高専生

熊本高専の熊本キャンパス（合志市）と八代キャンパス（八代市）で

23日、地場企業や学校に、新事業や商品を企画提案する発表会があり、学生がさまざまなアイデアを駆使した研究の成果を披露した。

同校と県工業連合会が2017年度から毎年開催。同会の会員企業の課題や要望を受け、学生が製品などで解決策を提案した。

情報通信エレクトロニクス工学科4年生

は、黒石原支援学校（合志市）で使う教材や機器を提案。出席率をグラフ化するアプリや、体を動かすことが難しい人向けに口の動きに反応して作動するスイッチなどを製作した。また、飲食店内のCO₂濃度を感知して、人が「密」になるとスマートフォンに通知するセンサーの発表もあった。



企業や学校の要望に合わせて、新事業や商品を提案する熊本高専の学生ら＝合志市

新型コロナ